

岩湧山鳥獸保護区

**鳥獸保護区更新調査業務  
報告書**

平成28年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

## 目次

1.調査の目的 .....	1
2.調査区域及び調査対象 .....	1
4.調査地の概要及び環境 .....	1
5.調査地域図 .....	2
6.調査方法 .....	2
7.調査結果 .....	3
8.まとめ .....	6
9.観察した鳥類の写真 .....	7
10.参考文献 .....	7

## 1. 調査の目的

この調査は、平成 30 年 10 月 31 日で設定期間が満了する岩湧山鳥獣保護区の更新を行うため、野生鳥獣等の生息状況を把握し、基礎資料とする事を目的とする。

## 2. 調査区域及び調査対象

岩湧山鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等。

## 3. 調査内容

現地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

## 4. 調査地の概要及び環境

岩湧山鳥獣保護区は、大阪府南部で河内長野市の南端近くに位置し、和歌山県との境界に接する。また、標高 897.7m の岩湧山山頂も含まれ、面積は約 600ha である。西側は滝畑鳥獣保護区に接しており、北西にはやや離れて天野山鳥獣保護区がある。

保護区内はすべて山地地形である。植生はスギ・ヒノキ・サワラ植林とモチツツジーアカマツ群集が大きな面積を占めており、岩湧山山頂一帯は小さな面積ではあるが、ネザサーススキ群集が見られる。岩湧寺南方のモチツツジーアカマツ群集では、高木層にアカマツ、コナラ、イヌシデ、ミズキ、ヤマザクラ、ウラジロノキ等が見られ、亜高木層にシラキ、コハウチワカエデ、エゴノキ等が見られ、低木層ではクロモジ、タンナサワフタギ、モチツツジ、ツクバネウツギ、コバノガマズミ、マルバウツギ等が見られ、林床にはミヤコザサ、スズタケ、ツルシキミ等が見られる。

また、貴重な植物が多く生息し、ハバヤマボクチ、ニシノヤマタイミンガサ、アカネスミレは大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に指定されており、キキョウ、ヒゴスミレ、キンランは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されており、ヒナスミレ、コショウノキは準絶滅危惧(NT)に指定されている。この内、ハバヤマボクチ、アカネスミレ、キキョウ、ヒゴスミレは、山頂一帯のネザサーススキ群集で見られるものである。

鳥獣保護区内には、岩湧の森「四季彩館」があり、ネイチャーガイドの役割や、ボランティアを募って、登山道の修復活動等が行われている。また、岩湧山は新日本百名山に指定されており、登山者の人気も高い。

## 5. 調査地域図

図1に、調査地域図を示す。

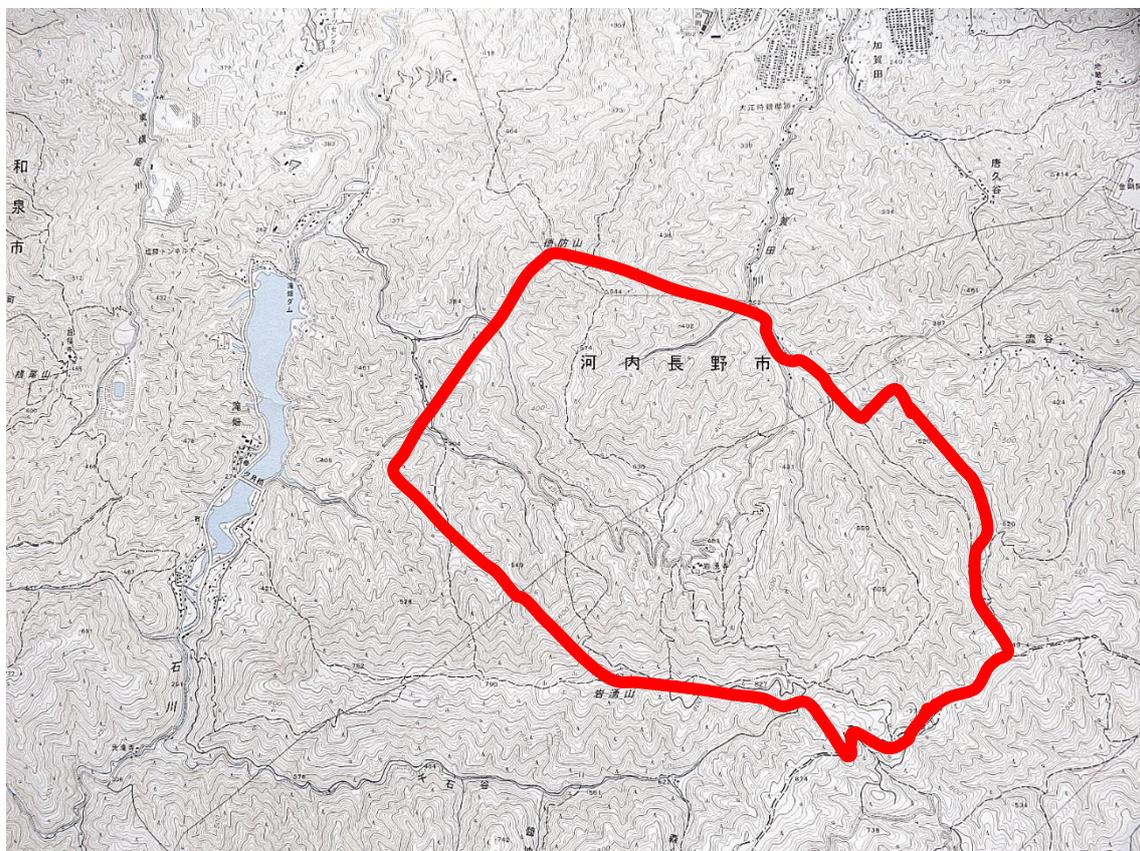


図1 調査地域図

## 6. 調査方法

以下に示す資料による文献調査、ヒヤリング及び現地調査によった。ヒヤリング結果は表1に反映させた。現地調査については、横谷―岩湧寺―行司河原分岐 4kmの道を9:30から11:50まで、2km/hの速度でラインセンサスを行なった。片側50m両側合わせて100mの範囲の鳥類を記録した。

文献1: 日本野鳥の会 大阪『むくどり通信 No183～245』(2006.4～2016.11のデータ)

文献2: 岩湧の森「四季彩館」資料

文献3: 廣田博厚フィールドノート

文献4: 大阪市立自然史博物館資料

現地調査は、文献調査の補足及び最新の状況把握を主眼として実施した。

## 7. 調査結果

### 7-1. 鳥類の確認

今回の調査により、岩湧山鳥獣保護区で確認した鳥類を、添付表 1 の岩湧山鳥獣保護区確認鳥種一覧表に示す。分類は 2012 年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第 7 版』によった。なお、コジュケイは中国南部原産の鳥であるが、今回は調査対象とした。また、ソウシチョウも移入種であるが、参考の種として岩湧山鳥獣保護区確認鳥種一覧表の末尾に掲載した。

文献調査および現地調査にて 86 種の野鳥を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥 35 種、夏鳥 15 種、冬鳥 22 種、旅鳥 14 種である。なお、留鳥(一部冬鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)の()付きの種についてはそれぞれ留鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

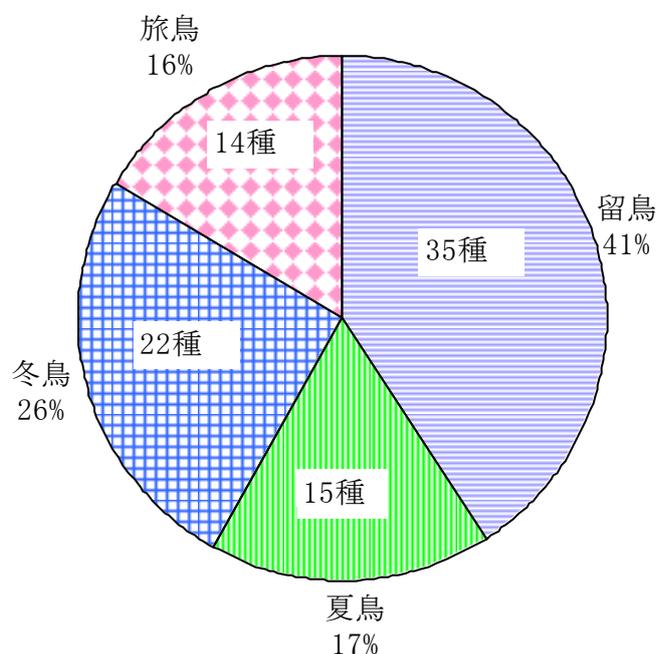


図 2 生息区分割合(%)

生息区分については 2002 年刊行の(財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録 2001』によった。なお、本目録に記載のないヤイロチョウとオオムシクイは、便宜上旅鳥とした。図 2 に生息区分割合(%)を示す。すなわち、留鳥 41%、夏鳥 17%、冬鳥 26%、旅鳥 16%であった。

今回の調査で 35 種の留鳥が確認されたが、四季別の文献調査の全てで確認されたのは、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、カワラヒワ、ホオジロの 16 種であった。これらの鳥は、すべての季節に岩湧山鳥獣保護区内に生息することが判った。これらの鳥でオオアカゲラを除く 15 種は、冬期 1/4 の現地調査でも確認された。

今回の調査で確認された夏鳥はホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ヨタカ、ハチクマ、サシバ、アオバズク、サンコウチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリの 15 種であった。この内、5/20～7/20 の夏期に確認されたのはヨタカ、アオバズクを除く 13 種であった。

今回の調査で確認された冬鳥は、ハイタカ、ノスリ、オオコノハズク、キクイタダキ、コガラ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、カヤクグリ、ビンズイ、アトリ、マヒワ、ベニマシコ、イスカ、ウソ、シメ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジの 22 種であった。この内、12/1～2/末の冬期に確認されたのは、オオコノハズク、コガラ、トラツグミ、カヤクグリ、ビンズイ、ミヤマホオジロを除く 16 種であった。

今回の調査で確認された旅鳥は、ジュウイチ、アマツバメ、アカショウビン、ヤイロチョウ、イワツバメ、オオムシクイ、メボソムシクイ、マミジロ、コマドリ、コルリ、ノビタキ、エゾビタキ、サメビタキ、コサメビタキの 14 種であった。

また、目別にみるとカモ、カツオドリ、ペリカンの 4 種の水鳥や水辺の鳥を除くキジ、ハト、カッコウ、ヨタカ、アマツバメ、タカ、フクロウ、ブッポウソウ、キツツキ、スズメ目 82 種が山野の鳥で、出現総数の 95%と多くを占めた。

次に、繁殖および繁殖の可能性について述べる。今回の調査で確認した留鳥 35 種、夏鳥 15 種、及び旅鳥であるが繁殖が確認されたコサメビタキ 1 種を加え、合計 51 種を対象に、繁殖の可能性の判定を行った。繁殖の可能性の判定は、添付表 2 の環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』に従って判定を行なった。

その結果、繁殖を確認したもの(a ランク)はヤマドリ、キジバト、クマタカ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、ホオジロの 19 種であった。なお、クマタカの繁殖は鳥獣保護区内である。

また、繁殖期に繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるもの(b ランク)はアオバト、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、コゲラ、ヤブサメ、ミソサザイ、クロツグミ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、コジュケイの 12 種であっ

た。

また、繁殖期に生息を確認したが、繁殖についてはなんともいえないもの(c ランク)は 10 種であった。繁殖期に生息を確認出来なかったが繁殖期に生息が考えられるもの(e ランク)は 5 種であった。繁殖期に生息を確認できず、繁殖についてはなんともいえないもの(f ランク)は 5 種であった。従って、今回の調査で繁殖とその可能性を確認出来なかったものは 20 種であった。

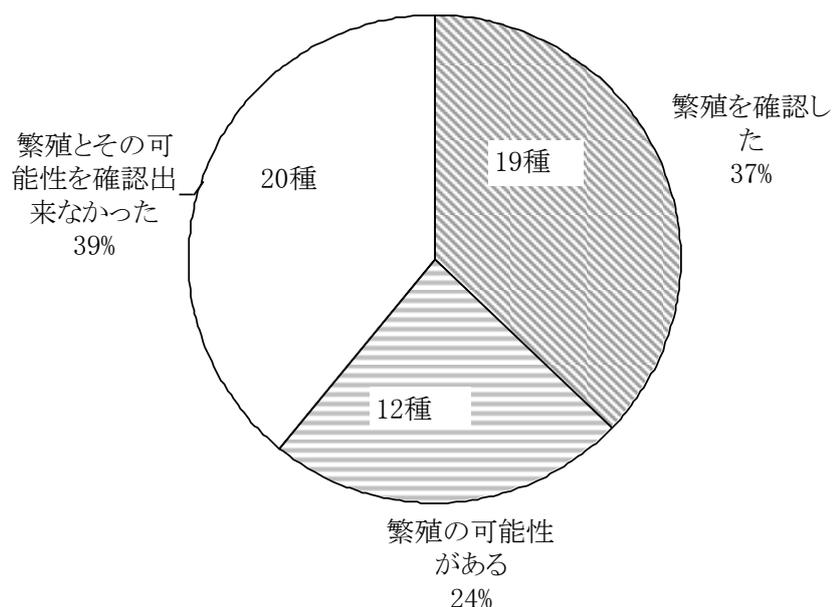


図 3 繁殖の可能性(%)

図 3 に繁殖の可能性(%)を示す。繁殖を確認したものは 37%、繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものは 24%、繁殖とその可能性を確認出来なかったものは 39%であった。繁殖を確認したものと繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものの合計は 61%と非常に高い割合である。また、これらの種の内、ヤマドリ、アオバト、ツツドリ、クマタカ、アオゲラ、ヒガラ、センダイムシクイ、ミソサザイ、クロツグミ、コサメビタキ、オオルリ、イカルは良好な森林の生息環境を好む種であり、これらは岩湧山鳥獣保護区の特徴を示している。

今回の調査で、国内希少野生動植物種としてオオタカ、クマタカ、ヤイロチョウの 3

種が確認された。特に国内希少野生動物種のオオタカが四季を通じて確認されたことは特筆に値する。環境省レッドリスト記載種は 7 種が確認された。内訳は、絶滅危惧ⅠB類(EN)としてクマタカ、ヤイロチョウの 2 種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)としてサシバの 1 種、準絶滅危惧(NT)としてヨタカ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの 4 種である。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種の内、すべてが山野の鳥であった。また、大阪府レッドリスト 2014 記載種については、絶滅危惧Ⅰ類 3 種、絶滅危惧Ⅱ類 4 種、準絶滅危惧 10 種、情報不足 1 種の合計 18 種が確認された。

## 7-2. 哺乳類の確認

文献4で、8 種の哺乳類が生息していることが確認された。哺乳類確認種一覧表を表 3 に示す。大阪府レッドリスト 2014 記載種は準絶滅危惧としてムササビの 1 種が確認された。

表 3 哺乳類確認種一覧表

No	目	科	種名	学名	文献 4
1	モグラ	モグラ	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○
2	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○
3	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○
4			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	○
5	ネコ	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○
6		イタチ	テン	<i>Martes melampus</i>	○
7		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon loter</i>	○
8	ウシ	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○

## 8. まとめ

1. 今回の調査において、岩湧山鳥獣保護区で 86 種の鳥類を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥 35 種、夏鳥 15 種、冬鳥 22 種、旅鳥 14 種である。なお、出現 86 種の内、82 種 95%が山野の鳥であった。
2. 留鳥 35 種、夏鳥 15 種、及び旅鳥であるが繁殖が確認されたコサメビタキ 1 種を加え、合計 51 種を対象に、繁殖の可能性を調べた結果、岩湧山鳥獣保護区内で繁殖を確認したものの 19 種、繁殖の可能性のあるもの 12 種であった。これら 31 種は全体の 61%という非常に高い割合である。また、これらの種の内、ヤマドリ、アオバト、ツツドリ、クマタカ、アオゲラ、ヒガラ、センダイムシクイ、ミソサザイ、クロツグミ、コサメビタキ、オオルリ、イカルは良好な森林生息環境

- を好む種であり、これらは岩湧山鳥獣保護区の特徴を示している。
3. 国内希少野生動植物種としてオオタカ、クマタカ、ヤイロチョウの 3 種が確認された。特に国内希少野生動植物種のクマタカの繁殖が確認されたことは特筆に値する。
  4. 今回の調査で、環境省レッドリスト記載種は 7 種が確認された。内訳は、絶滅危惧 I B 類(EN)としてクマタカ、ヤイロチョウの 2 種、絶滅危惧 II 類(VU)としてサシバの 1 種、準絶滅危惧(NT)としてヨタカ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカの 4 種である。希少な鳥が数多く確認され、環境省レッドリスト記載種 7 種は、すべてが山野の鳥であった。
  5. 哺乳類は 8 種の生息が確認された。すなわち、コウベモグラ、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、タヌキ、テン、アライグマ、イノシシである。大阪府レッドデータブック記載種は準絶滅危惧としてムササビの 1 種が確認された。
  6. このように、岩湧山鳥獣保護区は鳥類、特に山野の鳥の生息や繁殖に適した環境であると共に、府域の鳥類生息地として重要な地域であると言え、今後とも鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることが重要であると考えられる。

## 9. 観察した鳥類の写真

図 4 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

## 10. 参考文献

1. 大阪府 大阪府レッドリスト 2014
2. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
3. 環境省 報道発表資料-平成 24 年 8 月 28 日-第 4 次レッドリストの公表について(お知らせ)
4. 日本鳥学会 2012 年 日本鳥類目録 改訂第 7 版
5. 環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』
6. 大阪府 大阪府野生生物目録 2000.3

岩湧山の野鳥



ベニマシコ



ルリビタキ



ビタキ



キビタキ



ヒガラ



カケス

図 4